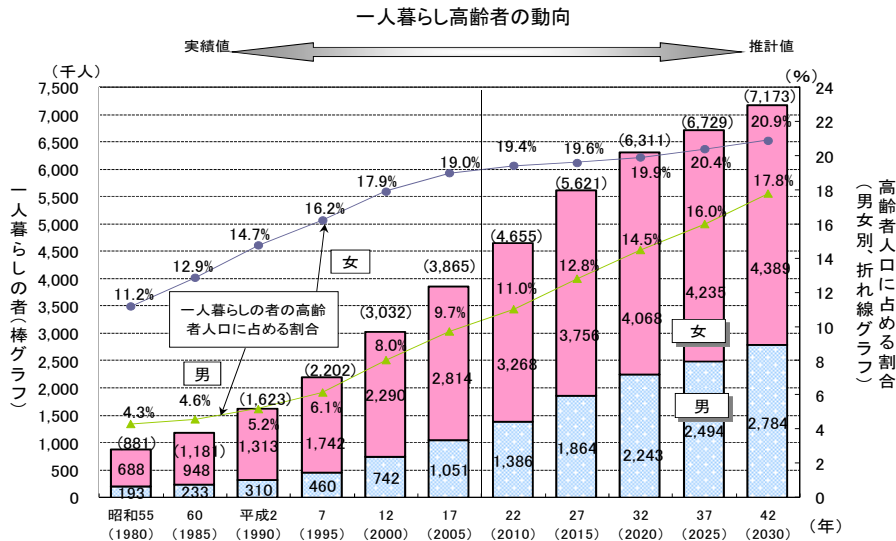


○ 一人暮らし高齢者は男女ともに増加。特に男性の一人暮らし比率の増加が顕著
 (高齢男性の一人暮らし比率は、2005年の9.7%から2030年には17.8%に上昇)

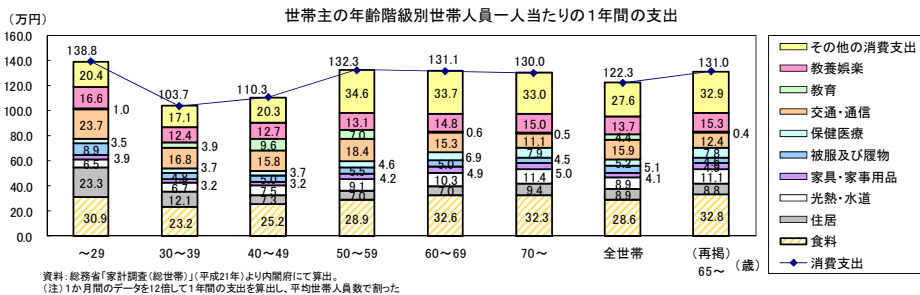


資料：平成17年までは総務省「国勢調査」、平成22年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(平成20(2008)年3月推計)」、「日本の将来推計人口(平成18(2006)年12月推計)」
 (注1)「一人暮らし」とは、上記の調査・推計における「単独世帯」のことを指す。
 (注2)棒グラフ上の()内は65歳以上の一人暮らし高齢者の男女計
 (注3)四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

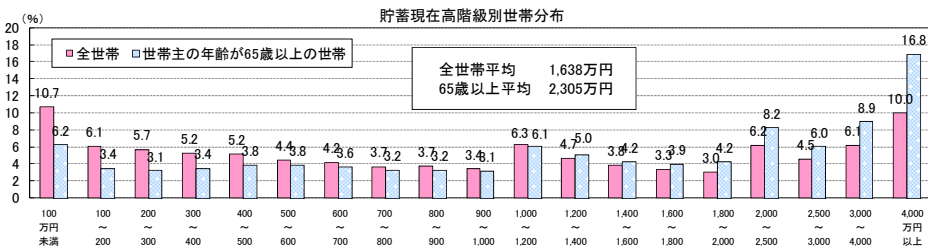
<支出と貯蓄>

支出については、全世帯平均が年間122.3万円なので、高齢者世帯のほうが全世帯平均を上回っている状況です。貯蓄現在高の分布については、全世帯平均が1,638万円、65歳以上平均が2,305万円なので、平均値で見ますと、65歳以上の平均のほうが高くなっておりまます。

○ 世帯主が65歳以上の世帯は、一人当たり支出水準が全世帯平均を上回る
 ○ 世帯主が65歳以上の世帯は、世帯の平均貯蓄額が全世帯平均の1.4倍



資料：総務省「家計調査(総世帯)」(平成21年)より内閣府にて算出。
 (注)1か月間のデータを12倍して1年間の支出を算出し、平均世帯人員数で割った



資料：総務省「家計調査」(平成21年)
 (注1)単身世帯は対象外
 (注2)ゆうちょ銀行、郵便貯金・簡易生命保険管理機構(旧日本郵政公社)、銀行、その他の金融機関への預貯金、生命保険の掛金、株式・債券・投資信託・金銭信託などの有価証券と社内預金などの金融機関外への貯蓄の合計